

# アセアンにおけるフードバリューチェーン 構築に係る取組について

令和元年11月20日  
農林水産省

海外投資・協カグループ  
国際交渉官 木下 博晶

E-mail: hiroaki\_kinoshita640@maff.go.jp

# 1 フードバリューチェーンの構築

## 課題

- ・低い生産性
- ・農産物の保管・輸送体制の不備によるフードロス
- ・農業者の知識不足による安全・安心な食品の提供不足等

## フードバリューチェーン構築

- ・経済協力の戦略的活用
- ・日本の民間企業が有する技術やノウハウの入等

農家の所得向上  
食品産業の発展  
に貢献

### GFVC推進官民協議会

グローバル・フードバリューチェーン推進官民協議会を設置し、民間企業と情報交換・意見交換  
・海外展開における課題や、FVC構築のための日本の技術・ノウハウを共有。



### 二国間政策対話等の開催

両国の政府間で議論  
・農業・食品分野の現状及び課題の把握、  
・FVC構築に向けた官民の取組み  
・ビジネス環境整備(投資・貿易規制の改善など)



### 民間企業への支援・官民フォーラム

両国の政府機関と民間企業が参加、情報交換及び企業間のマッチング  
・相手国の投資優遇制度  
・双方企業の製品、取組・活動状況などの紹介  
・現地企業の視察 など



## 2 二国間政策対話等の実施

フードバリューチェーン構築のため、二国間政策対話等を13ヶ国(うちASEANは6ヶ国)で実施。

2019年度は、ミャンマーとカンボジアで二国間政策対話を、ベトナムで対話の幹事会を開催予定。

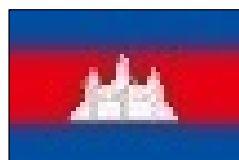
2019年度の開催日程は予定、※は対話と併せて官民合同で現地の生産現場等を視察



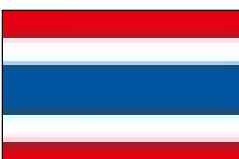
2014年 6月	日越農業協力対話第1回ハイレベル会合
2018年 4月	日越農業協力対話第4回会合
2019年 11月	日越農業協力対話(幹事会)



2014年 9月	日ミャンマー農林水産業・食品協力対話第1回ハイレベル会合
2019年 1月	日ミャンマー農林水産業・食品協力対話第5回会合 ※
2020年 1月	日ミャンマー農林水産業・食品協力対話第6回会合 ※



2015年 12月	第1回日カンボジア二国間フードバリューチェーン対話 ※
2018年 11月	第4回日カンボジア二国間フードバリューチェーン対話
2019年 12月	第5回日カンボジア二国間フードバリューチェーン対話 ※



2016年 10月	第1回日タイ農業協力対話
2019年 2月	第2回日タイ農業協力対話



2015年 6月	第1回日インドネシア農業協力に関する二国間フォーラム ※
2016年 11月	第2回日インドネシア農業協力に関する二国間フォーラム ※



2016年 3月	日比農業協力対話第1回会合 ※
2017年 6月	日比農業協力対話第2回会合(政府間対話)
2018年 2月	日比農業協力対話(官民フォーラム)

### 3 日越農業協力中長期ビジョン（2015年8月策定、2018年4月改訂）（1）

#### 目的

ベトナムFVC構築に向けた中長期的な課題解決

#### 内容

3つのモデル地域を設定、2015～2019年の5年間の行動計画として策定。

#### 生産性・付加価値の向上

##### ■モデル地域（ゲアン省）

老朽化した灌漑施設の改修、安全野菜の生産体制の構築等



##### （進捗状況）

現地の気候に適した短期生育、高収量、病虫害抵抗性品種を導入し、農業生産性の向上。試験栽培を経て、栽培面積を拡大。

#### 流通改善・コールドチェーン

■モデル地域（ハノイ・ホーチミン等大都市近郊）  
冷蔵・冷凍倉庫の建設や低温流通体制構築に向けた民間投資の促進。農産物・食品の規格・認証に係る共同調査の実施



##### （進捗状況）

ホーチミン近郊のビンズオン省において三温度帯で管理する高品質・大量物流サービスの提供を開始。農産物や食品の規格・認証の整備を推進するための覚書を締結し、ワーキンググループを開催。

#### 食品加工・商品開発

##### ■モデル地域（ラムドン省）

国内外の需要に応じた高付加価値の農作物の生産、主要作物のブランディングやアグリツーリズムのプロモーション活動の支援

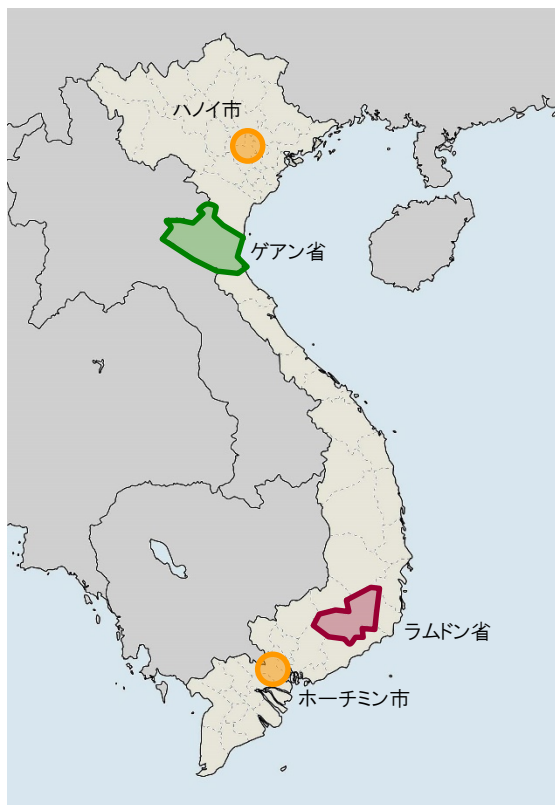


##### （進捗状況）

ラムドン省の農業振興に係る主要戦略の実現化に向け、ブランド戦略とアグリツーリズムの具体化を支援。

### 3 日越農業協力中長期ビジョン（2015年8月策定、2018年4月改訂）（2）

#### その他



■ 気候変動への配慮  
塩水遡上を抑制するためのインフラ整備の実施。  
流域保全林の造林、地域住民の森林管理能力の強化

（進捗状況）  
メコンデルタ地域の塩水遡上対策である「ベンチェ省水管理事業」を実施。施設は2022年に完成予定。  
「保全林造成・持続的管理事業」による造林や林業インフラの建設を通じて、森林管理体制の向上を図り、環境保全と貧困削減に寄与。

■ 高度人材の育成  
寄付講座を開設し、日本の企業から講師を派遣  
進捗状況  
ベトナム国立農業大学において、フードバリューチェーンの各分野に係る講義を実施。

■ 新規農業ビジネスに関する相談窓口（アグリビジネス ジャパン デスク）を設置しアドバイザーを派遣、ベトナムの農業農村開発省と連携して日系企業の進出を支援。



農業農村開発省内に相談窓口を設置

## 4 ベトナムにおける農産物・食品の規格・認証に係る取組

農林水産省及びベトナム国農業農村開発省は、2018年4月に「ベトナムにおける農産物・食品の品質に関する規格・認証の活用に向けた協力覚書」を締結。

### 協力覚書の概要

- 目的** 消費者ニーズに応える、農産物・食品の安全性や品質に関する規格・認証の整備・活用を推進。
- 内容** 食品の規格・認証に関する現状把握と課題分析を行うための①ワーキング・グループの開催、②共同調査を実施。

### ①ワーキンググループの開催

#### 2018年9月 第1回ワーキンググループ

規格・認証の現状把握と課題分析を行うため、具体的な調査について議論。

#### 2019年3月 第2回ワーキンググループ

ベトナムにおける規格・認証の現状把握と課題分析調査によって把握された課題の解決に向けて協議。



### ②共同調査の主な内容

- (i) 農業生産工程規範管理(GAP)
  - ベトナムのGAP(VietGAP及びBasicGAP)の認証の概要
  - GLOBAL GAP等ベトナム国外の組織が運営するGAPについての認証取得状況
  - FVCの各関係者(生産者、流通事業者、加工業者、小売事業者等)のGAPに対する認識
- (ii) 食品事業者による食品安全管理及び信頼性確保に関する規格・認証(HACCP、JFS)
  - 食品安全管理規格・認証に関する国及び民間の制度の実施状況、執行・指導する主体、認証手続の現状と課題等
  - FVCの各関係者の既存の食品安全管理規格・認証に対する認識
- (iii) 農産物・食品の品質、製法、管理方法等に関する規格(JAS)
  - 農産物や食品の品質、製法、管理方法等に関する規格・認証の現状と課題
  - 上記課題の調査及び解決に資する専門家の派遣

# 5 ミャンマーにおけるフードバリューチェーン構築のための工程表

**目的** ミャンマーのフードバリューチェーンを構築・高度化

**内容** 両国の官民の取組を有効に連携させて、2016～2020年の5年間の行動計画として策定。

## 品目別対策

### ■ 米・豆類

- 品種の純化、赤米の除去、砕米率の低減、機械化推進
- 圃場整備と併せた灌漑排水施設、農道等の整備

#### [進捗状況]

- 「農民参加による優良種子増殖普及システム確立計画プロジェクト」で、優良保証種子生産・供給システムの改善（マングレー、エーヤワディー地域）
- 「バゴー地域西部灌漑農業収益向上プロジェクト」で、灌漑用水を管理する農民グループが形成され、各圃場への水配分管理、灌漑施設の維持補修を実施（バゴー地域）



### ■ 油糧作物、工芸作物

- 油糧種子の改良、栽培技術の普及
- 広範囲の供給網の構築（民間企業）

#### [進捗状況]

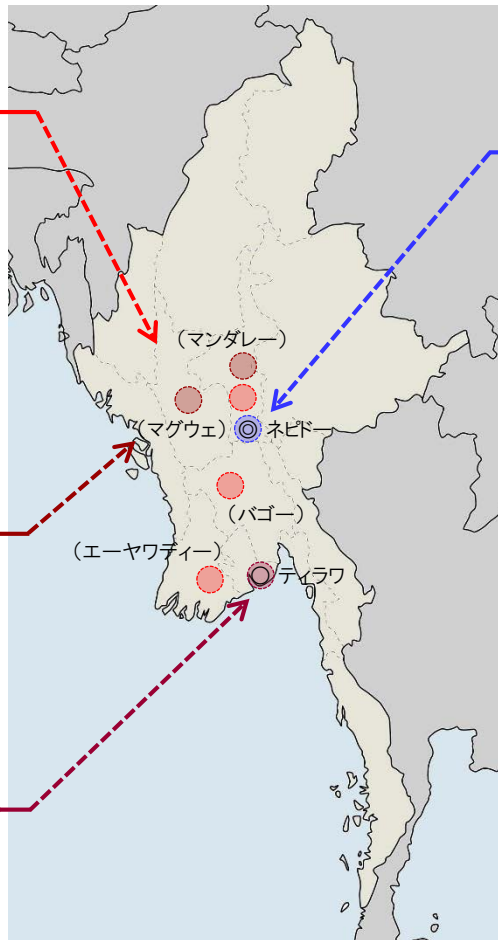
- 「中央乾燥地における節水農業技術開発プロジェクト」で、中央乾燥地域の気候・土壌に適した落花生、ゴマ、キマメ、リョクトウの品種および栽培方法を特定し、種子生産技術の移転を実施中（マングレー、マグウェ地域）

### ■ 園芸作物

- 優良種苗の供給、適正な農薬・肥料の投入
- 民間投資によるコールドチェーン整備を含む品質管理向上

#### [進捗状況]

- 「農業政策アドバイザーの専門家派遣」により、FVC構築に向けた課題及び現状を把握、政策立案を支援
- 日系企業が低温物流倉庫等の事業を展開（ティラワSEZIほか）



## 横断的対策

### ■ 食品産業

- 中小企業支援（中小企業金融、免税措置等）
- 加工食品の品質基準の作成

#### [進捗状況]

- 日系合弁会社が冷凍加工工場を設立し、2016年12月に日本向けに冷凍野菜を初輸出（ネピドー）



### ■ 農業金融

- ミャンマー農業開発銀行(MADB)による機械・設備資金の拡充
- MADBの審査能力の強化

#### [進捗状況]

- 「農業農村ツーステップローン」で、12地域・州においてトラクター、コンバインハーベスター、耕運機等合計1,043台の機械購入に融資済（全国）



### ■ 農業機械

- 様々な資金源からの金融支援
- 運転の安全を確保するための、農業機械の検査態勢の構築
- アフターサービスの提供

#### [進捗状況]

- 日系企業がティラワSEZIでの操業を開始。ミャンマー国内のディーラーと連携し、販売網を拡大（全国）



## 6 農民組織の育成・強化

**目的** 農作物の生産振興と農家収入の増加

**内容** ASEAN各国の農協職員等を対象に、我が国の首都圏及びその周辺のJA等において、農民組織の中核リーダーの育成や農協事業の強化のための研修等を実施。

### 農協運営改善のためのリーダー育成研修

主要産業である農業の発展を通じて、農業生産を押し上げ、農家の収入を向上させるために、農業協同組合を含む農民組織の育成を支援。



### 女性実務参画促進支援研修

農業組織の運営及び組織化された販売活動の更なる参画を促進するために、農村女性リーダーの能力向上を支援。




### FVC構築のための農協組織育成研修

農協組織の発展と所属する者の生活水準の向上のために、採算性を重視した販売事業を強化。



### 女性グループが健康飲料を販売

 タイ (カセート・パッタナ村)

- バンペーオ農業協同組合のプラセルツリ参事は、研修で農家と農協の関係や、女性グループの活動などに関する知識を習得。
- 農家自身が薬草を加工し、販売できるよう、農協や国の機関の支援を受けて女性グループを立ち上げ、製品開発や流通・販売を開始。
- また、アロエジュースを生産・販売。輸出を視野にハラル認証も取得して収入を確実に伸ばしている。



アロエベラの加工



# 7 寄付講座

日本の民間企業から専門家を派遣していただき、種苗から食品加工、流通、消費など各分野の実践的な知識・技術の講義等を実施（技術の習得等を目的とした実習や実地研修、インターンシップなども実施）。

**目的** フードバリューチェーン構築のための人材育成

## 寄附講座のカリキュラムの例

（2019年6月 ベトナム国立農業大学の場合）

トピック	講演内容	担当企業等
物流	ヤマトグループのコールドチェーン戦略について	ヤマト運輸(株)
農協	バリューチェーン志向の農協	JA全中
知財戦略	農業・食品の知的財産戦略について	農林水産省
食品流通	日本酒製造の歴史、海外流通について	千代むすび酒造(株)
食品加工・冷凍	食品加工について ファストフードサプライチェーンにおける冷凍技術の役割	(株)前川製作所
食品規格	JAS規格について	農林水産省
ITと農業	食・農分野におけるデータ利活用について	富士通(株)
食品安全基準	JFS規格について	農林水産省
機能性食品	食品企業における機能性食品の開発	江崎グリコ(株)
環境対策	食品事業者及び生活者における食品ロス削減の具体的なアプローチについて	(株)office3.11
外食産業	持続可能性稲作と米、野菜の自社生産について	(株)吉野家HD
食品包装	包装容器の充填殺菌技術	東洋製罐(株)
品質管理	イオンにおける品質管理	イオン(株)
トレーサビリティ	日本の畜産物のサプライチェーン及びトレーサビリティについて	農林水産省

食品分析実習の様子  
(シンガポール)



講義の様子  
(カンボジア)

## 短期インターンシップの実施

連携大学から学生や教授等を招聘して日本の農業や食産業について学ぶ短期インターンシップを実施。



農協の視察

企業等を訪問し、日本における人材育成、食品加工、コールドチェーン流通等の現場を体験。

## 8 日本食・食文化の普及

**目的** 日本食・食文化の普及を通じたフードバリューチェーン構築

**内容** 海外の料理人や食関連事業者等に対する料理講習会の実施、日本料理の調理技能認定制度、日本産食材サポーター店認定制度等により、日本食・食文化を発信。

### 海外における日本食・食文化発信の担い手育成（外国人料理人の育成等）

- ・日本食普及の親善大使によるセミナー
- ・日本料理の調理技能認定制度
- ・日本産食材サポーター店認定制度
- ・海外の外国人料理人を招へいた日本料理店研修
- ・日本料理海外普及人材育成事業 等



日本料理店での研修

### 日本食普及の親善大使

国内外の優れた料理人等を「日本食普及の親善大使」に任命し、自らの活動や、出演する各種メディア・イベントなど、様々な機会を通じて、より親しみやすく、より幅広く、日本食・食文化の魅力を発信。

2018年度にも、新たに17名を親善大使に任命。



親善大使による日本食講習会

### 日本料理の調理技能認定制度

日本料理に関する適切な知識・調理技能を修得した外国人料理人を認定・育成することで、日本食・食文化と日本産農林水産物・食品の魅力を適切かつ効果的に発信。

2019年3月時点で、ゴールド8名、シルバー315名、ブロンズ590名の計913名を認定。



調理技能認定のマーク

### 日本産食材サポーター店

日本産食材を積極的に使用する海外の飲食店や小売店を、日本産食材サポーター店として認定。

2019年3月時点で、4,112店を認定。



サポーター店マーク